



東京オリ・パラのトーチ展示

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の聖火リレーで使用するトーチが同組織委員会から都道府県に1本ずつ譲渡されました。これを受け、県内35市町でも巡回展示が実施されました。本市では、2月10日に市役所1階ロビーで展示されました。

トーチを見に訪れた増田真弓さん(本町)は「無事に開催されてほしい」と願いました。

◀トーチを一目見ようと1日に約400人が足を止めた



地場産品を市立病院でPR

市立御前崎総合病院で2月10日、市内の地場産品を使った病院食が患者らに振る舞われました。食材を提供したのは市農業振興会。市内で収穫される1次産品の魅力をアピールし、地産地消を促すことが目的です。患者らには地元野菜の清汁、遠州夢咲牛焼き肉、芽キャベツフライ、イチゴ、メロンなどが配膳され、ベゴニアの花や多肉植物も食卓に彩を加えました。

◀高橋内科部長(左)にベゴニアの花を手渡す松本正幸会長(右)



市内小学生が竹林整備体験

市の青少年リーダー育成事業「御前崎クエスト」が2月13日、比木にある正福寺裏山の竹林で開催されました。参加した約40人の児童は、伐採や運び出しなど竹林整備を体験する中で、全国で問題となっている森林の荒廃問題について考えました。大森薫さん(薄原区)は、「竹を切り倒すのは初めて。倒れるときに大きな音がして驚いた」と振り返りました。

◀講師の川口真矢さん(右)から講義を受ける児童



自然や景観を後世に残そう

みどりのボランティア植樹が2月13日、合戸地区内の保安林で開催されました。この取り組みは、松くい虫被害にあった海岸松林を本来の飛砂防備・防風機能を有した防災林に復元し、豊かな緑の自然や景観を後世に残すことが目的です。11回目となる今回は、300本の抵抗性クロマツを植樹。参加者は、防風林を守り育てることの大切さを学びました。

◀クロマツを植樹する参加者